

あらゆる産業分野で活躍する HANWAの高性能攪拌機！

阪和化工機（株） 代表取締役社長 町井 秀年

（中河内ブロック／東大阪第二支部）



攪拌機は主役ではないが、攪拌技術でお客様のものづくりのクオリティーが変わる！
常にお客様に寄り添い続ける町井さんの工場を見学しました。

企業プロフィール

本 社：大阪市東淀川区豊新3-17-18
事業内容：攪拌機の製造・販売
従業員数：66名
設 立：1956年（昭和31）1月（創業1946年）
資 本 金：5千万円
拠 点：東京・九州営業所、上海阪和、ベトナム阪和

なくてはならないものづくり

設立65年目を迎える攪拌機メーカー阪和化工機株式会社。食品など身近な生活環境からバイオテクノロジー、宇宙開発にいたるまで、多岐多彩な産業分野のものづくりを『混ぜる』ことで支えています。あらゆるものは何かが混ぜられてできている。お客様のニーズに常に応え続け、お客様の求める以上のものづくり。代表の町井さんは、お客様に届いたときに笑顔が届くようなものづくりを実践しています。

ものづくりのはじまり

創業者は町井さんのお父様。当時、攪拌機を作れる会社が1社しかなく、困っているお客様からいただいた図面を見て、簡単そう！できるかも？と1台仕入れて同じようなものを作ったことが始まり。どんどん作って売ったがクレームの嵐！製品を検証するための試験水槽も測定器もない。「何を思ったのか親父は『これはおもしろいな！』と。『すんまへーん！』と言って修理しに行き『これはこーやな、あーやな』とノウハウを積み上げてメーカーとして成長してきました」

「うちの会社は、明日倒産する」と言われ

パイロットになりたかった町井さんでしたが「帰って来い」と、24歳の時に呼び戻されます。「兄は研究者で商売は向かない。お前が継げ」とバトンを渡され入社した1年後「うちの会社は、明日倒産する」と言われ、民事再生となります。過剰な設備投資が原因。当時100名いた社員さんのうち残ったのは20名。時は1980年代、バブル。3Kと言われる職場に若い子が来ない。職人の高齢化に伴い仕入れ先もどんどん廃業していったといえます。

海外へ

仕入れ先を求め、1987年に初めて中国へ。「2割は不良品でしたが価格は1/10くらいだったので儲かりました。中国に月に一度通うようになり、マザーマシンの質が悪くないものがないと判断し、中国で検査する会社を設立しました」。当時中国に攪拌機メーカーがなかったこともあり、マーケットも面白いと

販売を始めました。まだ、前例がなく試行錯誤していたところ、2000年に入会した同友会で、すでに中国進出して成功している先輩企業さんにいろいろ学ばせてもらったそうです。

価格差が大きいのと、技術をマネされる状態に陥ったことから、メイドインジャパン販売拠点だけを残して製造は撤退。チャイナプラスワンがささやかれ始めた11年前、ベトナムに製造拠点を移します。

業界の地図を塗り替えた！

夢が描けるような業界にしたい。業界規格を作ろうとトップメーカーの社長に直談判。相見積もり合戦に明け暮れる業界を変えたい。横のつながりがなく足の引っ張り合いに陥るのを防ぐために、攪拌機組合を作り、無駄を省き利益率を守ろうと呼びかけ10社中8社が賛同してくれたことにより実現したそうです。

ものづくりと人づくり

生きがい、働きがいのある会社にしていきたい。夢が描けるような会社にしたい。社員さんに夢を持ってもらうためには、会社の5年後10年後こうなっていくという経営計画書を作成して社員さんに提示。その思いが経営の隅々まで行き届いています。

年に一度の海外研修では、いつかは五つ星の会社に！をめざせるようにと、その地域の一番いいホテルに宿泊し最高級のものを体験したり、最も貧しいスラム街を体験することにより、日本の中での、そして世界の中での立ち位置を考えてもらう機会を提供したりしているとか。

これから

「まだまだマーケットは拡大している。一つ例を挙げれば、川が汚れているところなどにはまだまだ需要があります。文明が発達し、人が集まり、水が汚れてくると排水基準ができ、やがて機械や装置が必要となる。攪拌機は、このようにあらゆる産業分野で必要不可欠なもので、どこに目をつけておくかが重要なカギとなりますので、いろんなところにアンテナを張っておくことが大事だと思っています」。

日本の経営を海外で生かす

「日本の経営は、社員さんを大切に、幸せになってもらうことができる経営だと思います。それが特徴だと思うのです。この特徴を海外でも生かすことができれば、きっと日本人も海外で成功することができるんじゃないかと思っています」。

町井さんの人間愛の深さを何度も感じる取材となりました。

取材・写真：日中経済交流研究会 広報委員会
文：（株）リバーフィールド 山岡 和美